

同盟諸国の分析

総論 親スパルタ寡頭派の存在

スパルタ王や有力政治家との「フィリア」「クセニア」

・・・同志的紐帯

スパルタ的教養の共有

国内民主派との敵対関係

前三七五年の衝撃的体験

平和条約締結に伴う民主派の帰国、革命

体制・権力維持のためのスパルタとの同盟

アルカディア

(1) テゲア・マンティネイア、オルコメノス等

小帝国形成

(2) トリピュリアをめぐるエーリスとの紛争

(3) 都市国家間の対立

テゲアとマンティネイア

(4) 都市国家内部の対立

J. Roy, 'Archadia and Boeotia in Peloponnesian Affairs,

370-362 B.C.,' *Hist.* 20 (1971), 569-99.

親スパルタ寡頭派对反スパルタ民主派

既存の体制の枠内での権力闘争

前 371 年の共通平和まで親スパルタ寡頭派が各都市の政権を掌握

↓

アルキダーモスと共にレウクトラの敗軍を迎える

アテーナイで共通平和締結

↓

民主派亡命者の帰国

↓

親スパルタ寡頭派から反スパルタ民主派へ

四つのパターン

- a) マンティネイア：変化の始まり
統合の動き (cf. 前 385 年の都市解体)
民主政の回復と、都市再建と市壁再構築の決定
アゲーシラーオスの干渉と要請を拒否
 国会での提案を拒否し、評議会で話させる
テゲア民主派との連携
 援軍派遣

 - b) テゲア：民主派のクーデタ
アルカディアにおけるスパルタの拠点
貧民層の不満は見出し得ず、クーデタに関与せず。
民主派（プロクセノスとカッリビオス）の蜂起
寡頭派（スタシッポス）の反撃
マンティネイアからの援軍
寡頭派の処刑・逃亡（800 名乃至は 1400 名）とパッラティオン
 での悲劇

 - c) パッラティオン：外圧による政策転換
テゲア西南約 10 キロ
マンティネイア寡頭派の受け入れ
追跡者の出現→亡命者の引渡し

 - d) オルコメノス：スパルタへの依存
マンティネイア・クレイトルとの対立
ポリュトロポスの傭兵隊設置
- ヘライア：トリピュリアの一都市

エーリスの圧力

e) アルカディア連合とメガレポリス建設
オルコメノスに対する圧力

エーリス

トラシュダイオス派の民主政政権
オリュンピア以南の領土の喪失
アテーナイでの共通平和への誓約を拒否
スキッロス領の奪回
マンティネイアの城壁構築に協力（資金と労働者の提供）
エパメイノンダスのボイオーティア軍招請

コリントス

同盟諸国のオピニオン・リーダー
親スパルタ寡頭派政権
前 375 年の革命の経験と民主派に対する恐怖
アルゴスに対する恐怖←アルゴスとの国家統合の経験
アルゴスの亡命している民主派および寡頭派
コリントス内部に亡命者の身内や友人の存在
アルカディア・アルゴス・ボイオーティアに対する不信感
民主派に対する敵意
ペロポネソス同盟諸国の中で親スパルタ政策の核
アテーナイとの同盟推進に重要な役割
自治条項蹂躪への指摘
前 367 年の平和条約に反対・挫折
アテーナイによる防衛部隊派遣
前 369 年春 イピクラテス
同 年夏 カブリアス
前 366 年 カレース

アテーナイによるコリントス占領の企て
ボイオーティアと休戦、しかし同盟は拒否

プレイウース

プレイウース寡頭派

スパルタの支援で、亡命先から帰国を果たし民主派から政権
を奪取。

ポダメノス派

アルキダーモス王の賓客。

プロクレス派

アゲーシラーオス王の賓客。

前 375 年の民主派亡命者による騷擾

アルゴスとアルカディアの干渉と民主派亡命者と市内の民主派の
連動

プロクレス、アテーナイ説得に活躍

エパメイノンダスの第一次侵攻の際スパルタを支援

前 366 年の民主派亡命者、ボイオーティア、シキュオン、ペッレ
ーネーの侵攻